

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0194100236), 法人名 (有限会社 ふれ愛), 事業所名 (グループホーム ふれ愛の花 1階), 所在地 (〒085-0031 北海道釧路市中島町4番11号), 自己評価作成日 (平成26年2月16日), 評価結果市町村受理日 (平成26年4月10日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ふれあう真心、あふれる笑顔」のホーム理念のもと、一人ひとりがかけがえのない存在として、尊厳を大切にそのひとらしく生活できるよう支援しています。尊厳を守る為に気を付けることを標語にし、定期的に自分たちができているか振り返りを行っています。認知症の方が落ち着いて生活できるよう温度、音、明かり、香り等の環境を整え、清潔を保つよう心掛けています。職員も環境のひとつであると考え、認知症の方の話を否定せず傾聴、共感、寄り添うケアを心掛けています。認知症の方が持っている力を発揮できるよう、できることできないことを見極め、できることはして頂き、できないことをさりげなく支えるようにしています。日常的に利用者と職員と一緒に洗濯物を干したりたたんだり、掃除や食事作りを行ったり、ホームでの役割を持って頂くことで張り合いを持って生活できるよう支援しています。春には山花リフレの市民農園を借り、南瓜やとうもろこし、玉葱等を植え、ドライブがてら農園へ行き農作業をしています。家族の方がホームに来られた時は笑顔で挨拶したり、利用者と一緒に楽しい時間を過ごして頂けるよう配慮したり、家族の方が訪問しやすい雰囲気作りを心掛けています。何かあったら家族の方に相談し協力を得ながら、その人らしい生活を送れるよう支援しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: http://www.kaizokensaku.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0194100236-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (社会福祉法人北海道社会福祉協議会), 所在地 (〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目1番地), 訪問調査日 (平成26年3月5日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は住宅と集合住宅・会社事務所等が立ち並ぶ中に立地している。商店も近くにあり、病院に行くにも利便性が良い環境にある。建物は共用空間から玄関の人の出入りがよくわかる構造となっている。利用者は居間で寛ぐ時間が長く、台所の匂い、テレビの音、話し声や笑い声等を聞きながらそれぞれの居場所で過ごしている。家族の訪問時には楽しく時間を過せるように支援を行っている。ボランティアの訪問も多く、利用者も一緒に楽しんでいる。また、市民農園を借り、ドライブを兼ねて農作業に行き、秋には収穫をしている。職員同士の人間関係も良好で意思疎通や連携がよく、ケアに取り組む姿勢は利用者や家族からの信頼関係に繋がっている。ホーム長・管理者・職員は家族との絆を大切にし、利用者の尊厳を守り、日々穏やかな暮らしが出来るように支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service goals.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを大切にされた事業所の理念は職員が常に見える所に掲示しており、日々意識しながら仕事をしている。また、定例の会議や社内研修等で管理者と職員は、理念の共有を図り、実践につなげている。	理念は母体法人とは別に、事業所独自の理念を作り事業所内に掲示している。管理者と職員は理念を共有し、理念に基づくケアを日々の実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、盆踊りや総会に参加したり、廃品回収の協力をしている。地域の方にホームの行事や避難訓練に参加して頂いている。庭の掃除や雪かきの際、通学の小学生に声をかけている。	町内会に入会し、総会や盆踊りに参加し資源回収にも協力している。地域住民の高齢者相談に耳を傾けアドバイスをしたり、事業所行事や避難訓練への参加を呼び掛けている。幼稚園児が慰問に来て	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症という病気についての理解や支援について話をさせて頂いている。また、相談を受けた際には対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1度、運営推進会議を開催しており、評価への取り組み状況、行事、研修等の報告を行っており、意見をサービス向上に活かしている。	年6回運営推進会議を開催しており、事業所の現状や利用者の生活状況を報告している。参加している地域住民から、事業所行事や防災訓練参加等の意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に家族の参加が少ない。家族全員に案内を出し、会議終了後には議事録を送付して、理解を深めるなど参加の呼びかけに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	代表者は、日頃より市役所へ出向き、担当者に事業所の実情を伝えている。また、事故等何かあった時は、速やかに担当者に報告、相談している。	法人代表者が日頃より市役所に出向き、事業所の実情を伝えたり、情報を得、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と禁止の対象となっている具体的行為について、すべての職員に研修で周知され、日常的に身体拘束をしないケアを行っている。玄関の施錠は、夜勤帯以外はしておらず、入居者の帰宅願望等には、無理に引きとめず、一緒に外へ出掛けホーム周りを散歩したり、本人の思いを傾聴したり、気を他に向けて頂けるよう対応をしている。	身体拘束の研修会には、全ての職員が参加をしている。日頃より職員同士で業務の中で話し合い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。「言葉による拘束」の研修も予定されている。施錠は夜間のみとし、日中散歩に出かけたい利用者には職員と一緒に散歩をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修、社内の勉強会等で学ぶ機会を持っている。入浴や更衣の際に身体を確認し、変色、あざ等発見した場合、管理者に報告、職員間で共有し、虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は成年後見制度の研修に参加し、制度について理解している。いまのところ必要性が高い利用者はいないが、今後必要になる場合もあるので、職員についても研修等で制度について学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前にホームに見学に来て頂き、利用者、家族の不安や疑問点について十分な説明を行っている。契約の際には重要事項について丁寧に説明を行い、理解・納得を図っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃より利用者や家族とのコミュニケーションを積極的に図り、意見、要望を引き出せるよう努め、それらを運営に反映させるよう取り組んでいる。	家族と事業所の関係は良好で、何かあれば家族から管理者に直に話している。ケアに関する意見や要望は直ぐに取りかかり、その結果を家族に伝えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。また普段より職員が意見を言いやすい雰囲気を作るよう努めている。	会議の中で、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設けている。ケアに関する意見は直ぐに取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人の勤務状況を把握し、努力や実績を評価している。各自が向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、職員の力量を把握した上で、積極的に外部の研修を受ける機会を設けている。また同じ法人の他の事業所と合同で研修を行っている。研修後は、報告書を作成し、会議で内容、感想等発表して、学んだことを活かせるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北海道認知症GH協会の研修、行事等に積極的に参加し、他のホームの職員との交流を図っている。他のホームの行事に参加させて頂き、ネットワークづくり、情報交換やケアについての相談をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の相談、本人との面談の段階から、困っていることや要望等を把握し、安心して入居できるよう努めている。入居後は、本人の言葉、態度、表情から本意を汲み取り、信頼関係を築くよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談では、家族の思い、困っていることや不安なことをじっくり聴くよう努めている。入居後は家族が来訪した時は、本人の近況を報告し、信頼関係を築くよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居の相談を受けた段階で、本人の状況、ニーズを把握し、その時に必要とされる支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に掃除、食事づくりを一緒に行い、利用者から長年の経験から教えて頂くことも多い。食事やお茶のひと時を共に過ごし、そこでいろいろな会話をし、暮らしを共にしている者同士という関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪した時は、出来るだけ本人とゆっくり過ごせるよう配慮している。普段の生活の様子を家族に報告、なにかあった時は相談している。共に本人を支えていく関係を築けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や以前住んでいた家の近所の方等、馴染みのある方が来訪された時は、笑顔で出迎え、本人の所へ案内している。馴染みの方に電話を掛けたいと要望のある利用者には、電話の取り次ぎをしており、馴染みの方との関係が途切れないよう、努めている。	馴染みの理・美容院が事業所に来たり、家族や職員と馴染みの所に行ったりしている。友人や昔なじみの知人等が訪問している。電話の取り次ぎなどには、ゆっくり話せるように支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握するよう努めている。利用者間で言い合いになっても、すぐに介入するのではなく、状況に応じ対応するようにしている。利用者同士が関わり合い、支え合えるよう見守りしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もいつでも立ち寄って頂けるように声掛けをしている。退居後、家族が訪ねてくれることもある。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望や意向については、本人に聞くようにしている。困難な場合は、生活歴や日常の会話や行動から汲み取ったり、様々な方法で把握するよう努めている。	日常の暮らしの中で一人ひとりの希望や意向を把握し、聞き取りが困難な人には生活歴や日常の行動の中から汲み取り家族と相談しながら本人本位に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方について本人や家族に聞いたり、センター方式のシートを活用し、サービス利用の経過等の把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方、できること、できなくなったこと、心身の状態等の把握に努めている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のユニット毎の会議の中で、介護計画について、評価、見直しを行っている。より良く暮らすための課題を本人の言動や家族の話から見つけ、職員の気付きや意見、アイデアを反映し、介護計画を作成している。	ユニット会議では全職員でモニタリングやカンファレンスを行い、本人と家族の意向を大切にしながら介護計画を作成している。病気や生活状況に変化があれば、その都度現状に即した介護計画を家族の意向を踏まえて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人別の一日の生活状況の記録を付け、身体的、精神的状態を職員間で共有し、日々のケアや介護計画の見直しに活かしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	今のところ、そういったニーズがないが、必要に応じて柔軟な対応をしていきたい。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々が慰問に来て、利用者と一緒に歌を歌ったり、踊りを踊って、楽しんでいる。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望を大切に、場合によっては受診への付き添い、送迎をして適切な医療を受けられるように支援している。	定期健診は家族が対応しているが、家族の都合の悪い時は職員が対応している。訪問医が2名、月2回の診療に来ている。訪問看護師も月2回来訪し、利用者の健康管理がなされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月2回の訪問看護師の来訪時に、利用者一人ひとりを診て頂き、こちらからも日常の関わりでとらえた情報や気づきを伝え相談し、適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際には、安心して治療できるように、病院へ情報提供している。主治医や相談員と退院へ向けての相談を行い、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って、家族と話し合い、医療機関と連携を図り、支援に取り組む体制がある。	事業所の看取り指針に沿って、早い段階から本人や家族と話し合っている。管理者は看取りの経験があり、医療関係者と連携を図りながら情報や指針を共有し、支援に取り組む体制がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回、市民防災センターへ行き、救命救急(心肺蘇生、AEDの使い方)の訓練を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームにて避難訓練を行っている(年2回)。市民防災センターへ行き、避難誘導訓練、消火訓練、通報訓練を行っている(年2回)。避難訓練の際は町内会に参加協力して頂いている。	避難訓練は年2回、地域住民も参加して行っている。市民防災センターへ行き避難誘導訓練、消火訓練、通報訓練等を年2回、全職員が参加している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけ、対応のための標語を掲げ、ホーム内の職員の目の着く所に貼っており、気を付けて対応している。	尊敬する心を忘れない8項目の「ふれ愛標語」を作成し、接遇に気をつけて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望をできるだけ表したり、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるよう、急かしたり業務優先にならないよう気を付けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を尊重し、季節感のある、その人らしい身だしなみや、好みのおしゃれができるよう心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや嚥下の状況を把握し食事を作っている。また、利用者に材料を切ったり、盛り付けや味見をしてもらったり、日常的に利用者と職員が一緒になって、食事の準備や片付けをしている。	食事は一人ひとりの好みや嚥下の状態を把握し、手作りにこだわり栄養面や盛り付けに配慮している。利用者は職員と一緒に準備や後片づけを行っている。また、外食の支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事、水分量を記録している。水分が不足している時は職員間で共有し、こまめに摂取を勧めている。栄養が偏らないよう献立を作っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態を把握し、毎食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各個人の一日の排泄のパターンを把握した上、自立した排泄の支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握している。日中トレーニングパンツの利用者には、トイレ排泄の支援を行っている。夜間帯はおむつの人もいるが、声掛けや誘導で自立排泄が多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳、ヨーグルト、ヤクルト等の乳製品、野菜等を摂るようにしたり、水分を多く摂取したり、運動をする等できるだけ薬に頼らないようにしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	おおまかな入浴の曜日、時間は決まっているが、状況によって流動的に対応している。一人ひとりの希望やタイミングにあわせて、入浴を楽しんで頂けるよう支援している。	週2回を目安に入浴をしている。風呂好きの方には希望に沿うように支援を行っている。入浴を拒否する利用者には声掛けを工夫している。同性介助の希望にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣、健康状態、睡眠の状況を把握し、安心して眠れるよう室温、明かり、音等の環境を整えるよう努めている。また、		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容、副作用について理解しており、利用者がきちんと服薬できるよう支援している。手渡しすると自分で飲める利用者でも飲み込むまで確認している。薬の変更があった時は、様子を観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的に洗濯物を干したりたたんだり、もやしのひげ取りをしたり、モップ掛け等の役割や庭に花を植えたり、山花のリフレ農園を借りて野菜を栽培したり、盆踊り、ドライブ等の楽しみごと、気分転換等の支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望にそって、散歩、ドライブ、買い物等で戸外に外出している。毎年行っている演芸会を楽しみにしている利用者があり、主催者の協力を得て車椅子の席を用意してもらい他の利用者、職員で参加している。	散歩やドライブ・買い物等のほか、弁当を持っての遠足や食事会、演奏会などにも行っている。また、外出の希望があれば出来るだけ添えるようにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの力に応じてお金を所持したり、買い物に出かけられるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話、手紙のやり取りできるよう支援している。家族に頻繁に電話の希望がある利用者については、家族の了解を得て電話の取り次ぎをしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度、湿度、明るさ等不快な刺激がないよう配慮している。利用者と一緒に掃除をし、気持ちよく過ごせるようにしている。また、季節により飾り付けし、季節感を感じて頂いている。	共用空間は清潔に保たれている。玄関や居間の壁を利用して季節感を感じられるように飾りつけをしている。台所からは食事の支度の音が聞こえるなど、生活感があり、利用者はそれぞれの場所で寛いでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話したり、共用空間の一人掛けのソファで独りになったり、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたタンス、テーブル、鏡台等を持ち込んで頂いたり、家族の写真、本人の好みの造花、ぬいぐるみ等を飾ったりして、居心地良く過ごせるようにしている。	利用者の使い慣れた馴染みの鏡台や筆筒、仏壇、小物類、写真等を持ち込み、家族と配置を考え居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を付けたり、トイレに案内札、浴室に「ゆ」と書いてあるのれんをつけて、わかりやすいように工夫している。		